花粉症症例の咳嗽に関するアンケート調査

神戸大学耳鼻咽喉・頭頸部外科
石田春彦

我々は耳鼻咽喉科の立場から慢性咳嗽に関する共同研究を行っているが、喉頭アレルギーの一分野として抗原が明確になっている花粉症症例の咳嗽について検討したので報告する。

スギ花粉症246例（平成15−17年）、シラカンバ花粉症13例（平成15、16年）のうち花粉飛散期に咳嗽や咽喉頭異常感を認めたのは111例（45.5%）であった。これらの症例で咳嗽があるのは64%であった。また乾性咳嗽が75%を占め、咳嗽発作の頻度は60%の症例が10回/日以下であった。症状としては咳嗽単独の症例は8%であったが、咳嗽+咽喉頭異常感の症例は57%であった。スギ花粉飛散量は平成16年は非常に少なく、平成17年は大量飛散年であったので、花粉飛散量による違いを検討したところ飛散量の多い年度ほど咳嗽を訴える症例の割合は多くなるものの、乾性咳嗽の割合は飛散量による差は認めなかった。また性別による咳嗽の有無の割合、乾性咳嗽の割合、咳嗽発作の頻度を検討したがいずれも有意な差は認めなかった。

以上より花粉症症例の咳嗽の特徴は1）約64%の症例が咳嗽を訴えるが、花粉飛散量が多いほどその割合は高くなる、2）75%が乾性咳嗽、3）発作頻度は比較的軽度、4）咳嗽単独ではなく咽喉頭異常感を伴うことが多い、5）性別による差は認めない。